

# 「いざという時」の「いざ」と「時」

令和7年8月14日

## 気象庁の津波警報発令！あなたは、何をしますか？

7月30日（水）8時25分頃、気象庁はカムチャツカ半島で起こった大地震で、日本列島にも津波が来るという「津波警報」の第1報を出しました。私は、恥ずかしながら、全く気がつかず、校内で教頭先生が走り回って、事務長さんと共に生徒の安全確保、保護者連絡、教職員への連絡など校内調整に当たってくれました。心から感謝しています。そして、富士宮地区は、海岸線から離れていることから、危機管理マニュアルを確認の上、教育活動は平常通り行いました。

しかし、この一歩目の「いざ」！さらに、緊急事態である「時」！反省とともに、こういう時にしっかりと振り返りとしておきたいと思います。なお、今回は、「いざ」=さあ、やるぞと動き出すこと、「時」=緊急事態、重要な局面をいち早く知り、協力してくれた多くの方々のおかげで、全員の無事でした（確認できました）。

他地域などの取り組み。津波警報が出た地域では、地域住民の避難場所になった高校もあったそうです。

（他校の取り組み）

●生徒の安全確保・・・今回は、情報機器（ライフライン）が使用できたから良かったが、スマホなどが使えなかった場合は、どうするのか。これは一律にはいかず、現場判断となる。今一度確認しておく必要あり！だそうです

・校内：津波警報後、補習を一度全てとめ、情報収集。校内で待機が安全と判断したため、帰宅せずに、最上階の教室に移動して、補習を再開。校内生徒も最上階にて自習。警報の様子を確認、注意報になったところで保護者と共に帰宅した（静岡地区の学校）

・校外：部活動の練習中。練習中止、避難場所の確認と、保護者連絡。現地に留まる生徒と、保護者の送迎が可能な場合は引き渡し。顧問等がその責任を負った。（引率の際の危機管理への意識）（同地区）

### ●校内に留める場合

・学校は、命を守る場所であるため、耐震構造や設備など、ある程度担保されています。そのため、学校から帰宅させるより、校内で一旦待機する選択をする場合があります。今回、他校でも、公共交通機関等のストップを受けて、校内待機の学校が多くありました。そこでは、非常食の提供、定期的な健康（メンタル含む）確認を行なったそうです。時間によっては、身体を休める体制づくり、トイレの確保。時間が長くなってきたら、安心のため、情報提供（定期的に全校に放送）をしていた。（静岡地区の学校、沼駿地区の学校など）

### ●避難場所になった場合

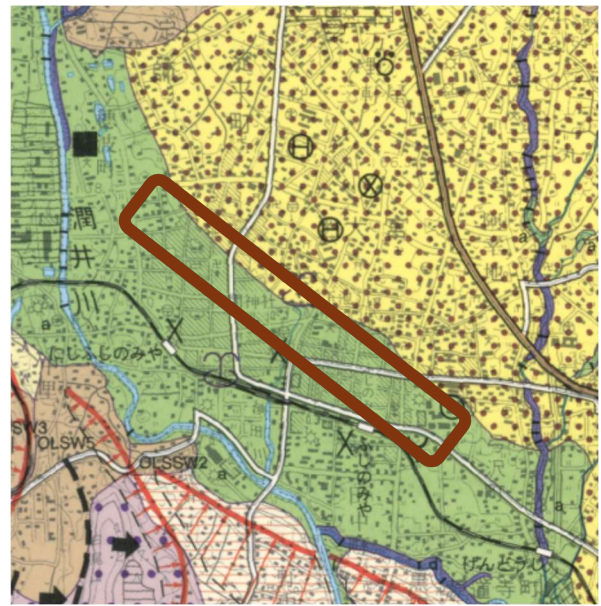
・津波警報後、津波避難地になった学校がありました。地域の方から（お年寄り、障がいを持った方、ペット同伴で良いかなど）続々と連絡があったそうです。直接来る方もいたようです。管理職に情報を一元化。もちろん、受け入れ体制を整えて、避難地の役割をしなければなりません。場所の確保、動線（トイレなどの設備）の説明、空調の利用、駐車場の確保などの判断が求められました。そして、何より、それにあたる教職員への指示（教職員も避難が必要）。教職員はご家族の安否確認後、必要な職務の指示を受ける（校長はする）ことがあります。また、警報に関する情報提供、帰宅困難者がいなくなるまで避難場所であり続けます。危機管理マニュアル、県と学校の役割分担を丁寧に確認し、必要に応じて訓練しておくことが必要となります。（静岡地区の学校）

## 緊急対応「時」！直ちに教育活動を中止する場合

本校の危機管理マニュアルでは、直ちに教育活動を中止し、保護者等に引き渡し、それができなければ生徒を校内（安全な場合）で待機させることになります。確認してください。「学校が所在する地域で震度5弱以上の地震が発生したとき」「南海トラフ地震臨時情報巨大地震警戒が出た時」「噴火警報レベル3以上の場合」「特別警報（気象等）が学校所在地の市町、県内全域に出た場合」これらの場合は、直ちに教育活動は中止しますので、生徒、保護者の皆さん、ぜひ覚えておいてください。（帰宅経路、保護者等との連絡体制確認!）

## いざ！防災を地理的に学ぶことは、地域を知る第一歩です！

富士宮にお住まいの方は、充分知っていることかと思いますが、富士宮の地形図を見ると、例えば、なぜ、浅間神社の湧玉池にこんこんと水が湧き続けるのかわかります。下の左図は地形図に湿地帯をのせています。右図は、富士山の溶岩流が過去にどう流れたか火山図です。これを比較すると、潤井川の流域（潤井川の氾濫原）と、火山溶岩流が流れ、透水性が高い岩盤から水が湧き出てくる場所がピッタリと合います。それに従って、水田地域と畑作地域が綺麗に分かれていますし、現在で言えば、身延線を低地に通したものの、雨風に弱い電車であることもよくわかります。私たちは、高校の授業などを通して、防災教育を行うことは可能です。学校は防災の拠点となりうる一方、防災を学ぶことは、地域のことを知る大切な一歩になることを忘れてはいけないと思っています。



## いざ！全国総体（インターハイ）出場 “自転車競技”

7月30日から8月3日まで、鳥取県倉吉市倉吉自転車競技場でインターハイ自転車競技が行われました。本校から、33HR 市川さんが個人で種目に挑戦し、見事インターハイに出場しました。女子1km タイム・トライアルで7位入賞、女子スプリントで上位進出と素晴らしい結果を残しました。自転車競技では、保護者のご協力のもと、本校からは、勝又先生と一緒に頑張ってくれました。トップを目指す！つもりであったと思いますので、悔しい部分もあると思いますが、学校としては、本当に嬉しく思いますし、いろいろな思いを背負って頑張り抜いた姿に感動をいただきました。（映像にとどまり、現地での応援ができず申し訳なかったです。）

## いざ！Summer English Camp2025！開催 生徒17人参加！

8月1日英語科が主体となり、ALT（他校含む）に協力してもらい、イングリッシュキャンプが行われました。参加ができず（英語のスピーキング力ほぼゼロですが）、申し訳なかったですが、楽しみにしていました。生徒も17人参加し、英語漬けの1日を過ごしました。富士宮の地域の多文化共生社会（観光、製造業での労働者等）では、英語はとても大切です、未来に向けて、力を入れたい科目です。その点からも素晴らしい取組でした。この取組は、

- ① Improve your English speaking skills
- ② Deepen your understanding about other countries and cultures
- ③ Explain local charms to foreigners in English

を目標に、富士宮のミルランド、山宮浅間神社、人穴富士講などを回り、英語で観光地案内をしました。多くの生徒が、このような取組に積極的に参加して欲しいと願いつつ、その教育環境の整備にも力を入れていきます。